

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

ブルーリボン運動はアメリカ合衆国発祥のインターネット上における言論の自由を守るための反検閲運動。

アメリカ合衆国で1996年2月、改正電気通信法のうち「通信品位法」と言われる第5条が成立した事から、電子フロンティア財団によって、直前の1995年から言論の自由を守るための運動が展開された。青は「言論の自由の死」に対する弔意を表す色。自身のWebサイトを持つ人達は、法案成立の日、ブラックアウトの上にブルーリボン画像を貼ったトップページで抗議の意を表した。マイクロソフト、アップルコンピュータも反対を表明。

「通信品位法」は成立直後の6月12日に連邦憲法（修正第1条 言論の自由の保障）違反で成立差し止めの判決が出て無効となっている。その後も、言論の自由を守る運動の象徴として、ブルーリボンは国際的に使われている。



日本国内においてもインターネット上における言論や表現の自由をおびやかす恐れのある法整備がすすんでいます。

すでに成立した「青少年ネット規制法」を含める[インターネット規制](#)。

廃案されても再び甦る、ネットのみならず、あらゆる報道・言論・表現の自由に影響する[人権擁護法案](#)。

[ブルーリボン運動は朝鮮民主主義人民共和国に拉致された日本人拉致被害者を救出するため日本の運動、およびシンボル](#)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

ブルーリボンは空と海の青い色 = ブルーに由来し、近くて遠い国の関係である日本と北朝鮮の間で、空と海だけが国境無しに続き、拉致被害者とその家族や日本人が空と海を見上げて、同時に再会のときを想定していることを意味する。

北朝鮮による拉致救出活動としては、拉致被害者の家族や親族による『家族会』、国会議員による『拉致議連』、都道府県下内で活動している『救う会』があり、一般庶民による地域内で活動している『ブルーリボンの会』がある。ブルーリボン運動は、ブルーリボンの会と勘違いしやすいが、主にここで述べた北朝鮮拉致救出活動の全ての団体に関係する。



[ブルーリボンネット運動](#)

報道監視まとめWIKIとブルーリボン

当サイトは国際ブルーリボン運動にちなんだネット上から言論の自由を守る願いと近年まで報道されることすらなく存在自体が社会的に抹消されていた拉致被害者の報道と救出とを願い

ブルーリボンをサイトロゴおよびバナー・アイコンのデザインにしています。

報道監視 まとめWIKI

報道監視まとめWIKIバナー



QRコード (<http://www15.atwiki.jp/houdou>)
ご自由にご利用ください。
